

# 今森光彦写真展 — 琵琶湖の便り、里山からの贈り物 —

展覧会期：2017年3月8日（水）～2017年5月18日（木）

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

ギャラリーエークウッドでは、2017年3月8日から5月18日まで、「今森光彦写真展—琵琶湖の便り、里山からの贈り物—」を開催いたします。今森光彦さんは、故郷の琵琶湖周辺の里山を舞台に30年以上にわたり自然や人々の暮らしを撮り続ける写真家です。1992年に『マザー・ネイチャーズ』誌上で「里山物語」の連載を開始、「里山」という言葉が世間の注目を集めるきっかけとなりました。今森さんが考える「里山」とは、「人と生き物が共に暮らすところ」、「人と生き物が共存する、日本古来の農業環境のこと」です。どこか特定の場所として限定されるものではなく、人と生き物が共存するすべての空間のことを里山と呼んでいます。

つい最近まで、私たちの暮らしの周りには、ごく自然に、田んぼがあり、雑木林がありました。また、四季折々の風景がいつも生活の傍らにありました。ところが、この50年くらいの間に、田んぼのあぜ道の風景は、真っ直ぐなコンクリートの道路に代わり、生き物は棲む場所を追われて、私たちの目前から遠ざかりました。今では虫網を持って昆虫を探す子どもの姿さえ見ることが少なくなっていました。私たちは、これ迄の半世紀の生活様式の激変の中で、里山を構築する農業の文化も無くしてしまうかも知れません。

今森さんは、100年前の自然を取り戻すには、もう手遅れかもしれない、と疑問を持ちながらも、里山の写真を撮ることや、子ども達に生き物の魅力を伝えることを続けています。1962年に生物学者のレイチェル・カーソンが『沈黙の春』で環境問題を告発してから55年、アメリカのアル・ゴア元副大統領が映画『不都合な真実』で、日常の暮らしと環境問題が深く関わっていると認識することの重要性を訴えてから約10年が過ぎました。多くの有識者が地球温暖化や、ごみ問題などの解決に向けてすぐにでも一歩を踏み出さなければならない、と警鐘を鳴らす現代ですが、恐ろしさを強調することだけでなく、身近な日本の風景の魅力を伝え、その中に暮らす生き物や人々の姿を美しい写真や映像で伝えることも、また人々の心を打ち、環境への理解を深めるきっかけになると思います。

今回の展覧会では、里山の自然とは、原生の自然のことだけではなく、生き物と人間が共に暮らす日々の営みの風景そのものだということを伝えたいと思います。今森さんの、故郷の琵琶湖を取り囲む里山の風景は、きっと私たちの暮らしが自然といかに深く関わっているか、そして、私たち自身も里山の風景の中にあるということを教えてくれることと思います。

敬 具

2017年2月  
公益財団法人  
ギャラリーエークウッド



GALLERY A4

開館時間 10:00-18:00 (最終日-17:00) 入場無料

〒136-0075 東京都江東区新砂1-1-1 tel : 03-6660-6011 e-mail : gallery@a-quad.jp URL : http://www.a-quad.jp/



## ■企画概要

展覧会名：今森光彦写真展 ― 琵琶湖の便り、里山からの贈り物 ―  
会 期：2017年3月8日(水)～2017年5月18日(木)  
会 場：GALLERY A<sup>4</sup> (ギャラリーエークウッド) 〒136-0075 東京都江東区新砂 1-1-1  
開館時間：10:00 – 18:00 (最終日は 17:00 まで)  
休 館 日：日曜・祝日 ※ただし 4/29(土) – 5/7(日)は休館となります  
入 館 料：無 料  
主 催：公益財団法人竹中育英会  
共 催：公益財団法人ギャラリーエークウッド  
協 力：針江生水の郷委員会  
お問合せ：ギャラリーエークウッド事務局 03-6660-6011  
E-mail：gallery@a-quad.jp GALLERY A<sup>4</sup> 公式サイト：<http://www.a-quad.jp>

## ■展示概要

- ・今森光彦氏の写真 パネル他、約 40 作品
- ・今森光彦氏の琵琶湖辺での自然保護活動の紹介
- ・今森光彦氏のアトリエの紹介

## ■関連イベント

- 対 談「里山の力」  
日 時：2017年4月17日(月) 18:30 – 20:00 (18:00 より受付開始)  
会 場：竹中工務店東京本店 2 階 A ホール(東京都江東区新砂 1-1-1)  
講 師：今森光彦(写真家)  
講 師：福岡伸一(生物学者、青山学院大学教授)  
定 員：100 名 ※先着順  
参加費：無料

## 今森 光彦(いまもり みつひこ)氏プロフィール

1954年滋賀県生まれ。写真家。

近畿大学卒業後、独学で写真技術を学び、1980年よりフリーランスとなる。

以後、琵琶湖を望む田園風景の中にアトリエ「オーレリアン\*の庭」を構え活動する。自然と人との関わりを「里山」という概念でとらえ、「里山」をテーマに撮影する。一方、熱帯雨林から砂漠まで、広く世界の辺境地の訪問を重ね、取材を続けている。また、ハサミで自然の造形を鮮やかにきりとるペーパーカットアーティストとしても知られる。

(\*オーレリアン:チョウを愛する人)

1995年 第20回木村伊兵衛写真賞 受賞。写真集「里山物語」(新潮社) 出版。

1996年 第9回大津市文化特別賞 受賞。第9回秀明文化賞 受賞。

2000年 ハイビジョン作品「映像詩 里山」をNHKスペシャルで放映。

2001年 写真集「里山の道」(新潮社) 出版。

2002年 写真展「里山物語」大阪セルヴィスギャラリー 開催。

2003年 第50回産経児童出版文化賞 受賞。第28回滋賀県文化賞 受賞。

2004年 NHKハイビジョンスペシャル「里山・琵琶湖畔 写真家・今森光彦の世界」放送。

NHKスペシャル「里山 命めぐる水辺」を放映。写真集「湖辺みずべ」(世界文化社)出版。

2009年 第28回土門拳賞 受賞。成安造形大学客員教授 就任。

2010年 NHK BSハイビジョン「今森光彦が見つめたニッポンの里山」シリーズ放映開始。

写真展「里山」コニカミノルタプラザギャラリー 開催

NHK総合「今森光彦 ニッポンの里山に行く」放映。

2015年 びわこ成蹊スポーツ大学客員教授 受任。

2016年 写真展「里山」 西武大津店 開催

他 著書多数。展覧会も多数開催し活躍している。



■ 広報用画像



a

b



c

d

e



f

g

a: 田植えの頃の棚田

人々が手塩にかけて作った「水の園」は、緩やかなスロープを描きながら琵琶湖へとつづく。水田は、山に住む生き物と湖に住む生き物との出会いの場をつくる。

b: 湖畔のウルシ

早春。響庭野のヨシ原に咲くノウルシ。まさに水辺を華やかにしてくれるスプリングエフェメル（春のはかなき命）でヨシが葉を広げ出す頃、早々と姿を消す。

c: 椎茸のほだき

シイタケを採るためのほだ木が積まれた小道。春の陽気に誘われて足どりも軽くなる。

d: かばた

地下水が湧き出る井戸は真夏でも冷たい。ひと昔前なら琵琶湖周辺のどこでも見られた風景だがいまではほとんど姿を消した。

e: あぜ焼き

香ばしいにおいが収穫の終わった棚田に充滿している。鳴く虫の音が響くなかで、秋はしだいに深まっていく。

f: 琵琶湖と伊吹山の光線

伊吹山の背後から昇る朝日が美しい光を放ち、神々しい風景をつくる。湖西から見つめる琵琶湖の朝はいつも感動的だ。

g: 今森光彦

琵琶湖が望めるアトリエにて/撮影:今森真弓

a~f: 撮影/今森光彦